

SOCIAL WOOD PROJECT新規共創パートナーとして 株式会社ソマノベースとの取り組みが始動 駅で苗木を育てる「駅から始める未来の森づくり」を開始します！

東急電鉄株式会社

当社は、なにげない行動からだれもがこれまで以上に森林資源の循環に貢献できる“木と人がめぐるまちづくり”を目指すSOCIAL WOOD PROJECTにおいて、新たに株式会社ソマノベース（以下、ソマノベース）と共創パートナーとして連携し、3月18日（火）から池上線の五反田駅、旗の台駅、千鳥町駅、蒲田駅で苗木を育て、「駅から始める未来の森づくり」（以下、本取り組み）を開始します。

当社はこれまで、駅舎開業から長きにわたり親しまれた駅施設において、「多摩産材」を用いたホーム屋根の建替えや、駅舎内外装などの改修を行う“木になるリニューアル”など、木材をふんだんに使用した駅改良工事を行ってきました。今般、木材を使うだけでなく育てることで森林資源の循環を促進するため、ソマノベースと連携して池上線の4駅において植林用の苗木を育成し、育てた苗木は約2年後に東京都多摩地区の森へ植林します。本取り組みは、ソマノベースが手掛ける「戻り苗（＝どんぐりから苗木を育て、植林する取り組み）」の仕組みを活用し、共同で進めるものです。駅での育苗は関東エリア初、駅で育てた苗木を東京都多摩地区の森へ植林する取り組みは全国初となります。

本取り組みを通じて、多様な動植物の生息地確保や災害抑制などにつながる多面的な森づくりに貢献し、未来の人や生き物の暮らしを支えるとともに、東急線沿線にお住まいの方々に、苗木の成長を通して“木にいいこと”を知っていただき、応援してもらえる機会を創出します。

当社は、2024年度を始期とする中期事業戦略において、戦略の柱として、「鉄道による環境・社会課題の解決」に取り組むことを掲げました。鉄道事業を通じて脱炭素・循環型社会の実現への責務を果たすとともに、事業特性を活用した新たな価値創造・貢献などにより、環境・社会課題の解決を目指します。

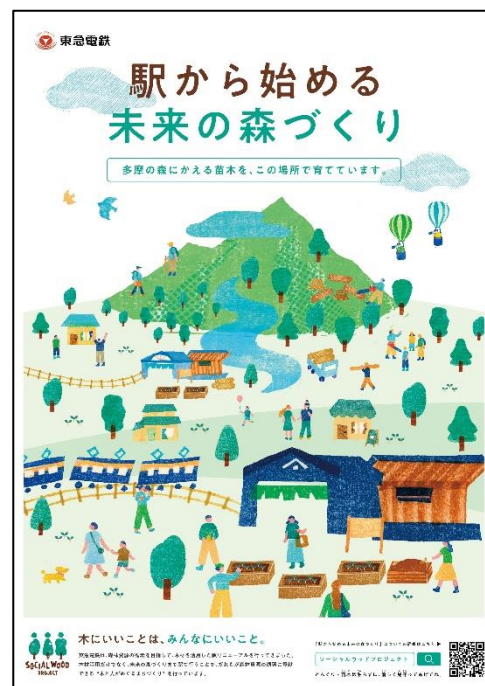
詳細は別紙の通りです。



＜駅で育てる苗木（イメージ）＞



＜駅係員によるどんぐり植え付け会実施の様子＞



＜駅に設置するポスター＞

以上

【別 紙】

■本取り組みの概要

「SOCIAL WOOD PROJECT」の一環として、苗木を育てることで森林資源の循環を促進するため、ソマノベースが手掛ける「戻り苗」の仕組みを活用して池上線の4駅で育苗を実施します。駅で育てる苗木は、約2年後に、東京都多摩地区の森に植林します。森林が健全な状態を保持し、多様な動植物の生息地確保や災害抑制などの機能を発揮するためには、「伐って、使って、植えて、育てる」循環利用のサイクルが必要です。当社はソマノベースと連携した本取り組みを通じて、さまざまな森林課題へアプローチするとともに、東急線沿線の方々に苗木の成長を通して“木にいいこと”を知って・応援していただける機会を創出します。苗木の育成は、各駅の係員をはじめとする当社社員、および本年3月26日（水）に着手予定の千鳥町駅「木になるリニューアル」工事の関係者が行います。

○設置期間:2025年3月18日(火)～約2年間(予定)

○設置場所:池上線五反田駅、旗の台駅、千鳥町駅、蒲田駅

○設置本数:五反田駅、旗の台駅、千鳥町駅…24本

蒲田駅…20本

計92本

○樹種:カシ類

■株式会社ソマノベース

ソマノベースは、「人と人」「人と自然」「事業と自然」の関係を、森づくりでデザインする会社です。土砂災害による人的被害をゼロにすることを目指し、山づくりや森林産業の再興に取り組んでいます。例えば、どんぐりから育てた苗木を森林に返す観葉植物「戻り苗」の企画・運営、「戻り苗」と植樹体験や研修などを組み合わせた、企業・教育機関の皆様の森づくりのコーディネートなど…個人から企業のお客さままで「森に関わりたい」という思いの実現をサポートしています。

※「戻り苗」とは

観葉植物として将来植樹される苗木を育てることで、いつもの日々の中で楽しく森づくりに参加できるサービス。サービスを開始してからこれまで、60社以上の企業・団体の皆様に、2,000本以上の苗木を育てていただいています。詳しくはこちら: <https://modrinae.myshopify.com/>

<株式会社ソマノベース代表取締役社長 奥川 季花様 コメント>

皆様にとって、森はどのような存在でしょうか。かつて、人と森はもっと身近で、恵みを享受しながら育て、活用し、文化の一部としていました。しかし、時代とともにその関わり方は変化しています。

当社は「土砂災害による人的被害ゼロ」を目指し、山づくりを進めています。だからこそ、多くの方と手を取り合い、新しい森との関わり方を生み出したいと考えています。「SOCIAL WOOD PROJECT」をはじめとして、だれもが日常の中で森林資源の循環に貢献できる社会を目指されている東急電鉄様と一緒できることを、大変嬉しく思います。

東急電鉄様、そして東京近郊の皆様とともに、「気づけば森と関わっていた」と思える楽しい森づくりを進めてまいります。

■「SOCIAL WOOD PROJECT」とは

東急線沿線でさまざまな“木にいいこと”を知って・参加して・応援する機会が得られ、なにげない行動からだれもがこれまで以上に森林資源の循環に貢献できる“木と人がめぐるまちづくり”を目指すプロジェクト。

本プロジェクトの取り組みは以下の4軸において展開し、当社だけでなく共創パートナーや沿線にお住まいの方々と連携し、推進していくことを目指します。

『木材活用』…本プロジェクトのコア事業。駅をはじめとする当社のさまざまな施設、設備やまちの中における木材活用の機会を創出し、広げることを目指します。

『地方創生』…地方の木材を都市で活用する“地産都消”の取り組みや、地方自治体と連携した取り組みなどを通じた都市と地方の交流機会の創出を目指します。

『CSV(共創価値創造)の社会実装』…日本の森林や林業が抱える課題に対して共創パートナーとタッグを組んで多彩なアプローチを検討することで、社会課題の解決を目指します。

『コミュニティ醸成』…東急線沿線を中心としたさまざまな地域で森林資源の循環につながる取り組みを実施し、企業や住民の方々といった多様な主体が参画できるコミュニティの創出や活性化を目指します。



▲SOCIAL WOOD PROJECTロゴ



▲SOCIAL WOOD PROJECTビジョンマップ

■「木になるリニューアル」とは

当社はこれまで、駅舎開業から長きにわたり親しまれた駅施設において、「木になるリニューアル」として東京都多摩地区で生育・生産される木材「多摩産材」を用いたホーム屋根の建替えや、駅舎内外装などの改修を実施してきました。これまでに池上線戸越銀座駅、旗の台駅、長原駅において「木になるリニューアル」を実施しており、今年度は4駅目となる千鳥町駅にも着手予定です。環境配慮の観点では、木材をふんだんに使用することで、鉄骨造に比べて建設時のCO₂放出量の抑制、炭素の固定化に寄与しています。また、千鳥町駅では「多摩産材」に加えて「あきた材」も取り入れるなど、今後は“地産地消”はもちろん、地方の木材を都市で活用する“地産都消”という考え方のもと、地方産材の利用にも取り組んでいきます。



・池上線戸越銀座駅(2016年度竣工)



・池上線旗の台駅(2019年度竣工)



・池上線長原駅(2021年度竣工)

・池上線千鳥町駅(2025年3月26日着手予定)

池上線千鳥町駅において「木になるリニューアル」を実施します。駅舎開業から約100年を経過した千鳥町駅において、ホーム屋根の建替え・延伸、駅舎内外装リニューアル、トイレの更新などによって安全性・快適性や環境性能の向上を図るとともに、木材を活用したリニューアルにより親しみやすく温かみを感じられる駅づくりを推進していきます。